

# ひきこもり家族への支援を目的とした 「ピアサポーター養成講座」

特定非営利活動法人 南大阪サポートネット  
〒589-0011 大阪府大阪狭山市半田 6-1179

## 助成事業の概要

不登校・ひきこもりの子どもを持つ親への支援を目的に、同じ体験をし、深い共感を持てる元当事者の親達がピアサポーターとしての役割を担うための「ピアサポーター養成講座」を下記の日程で実施した。

講座タイトル「ピアの力 ～つながることは希望への第一歩～」

- (1) 9/12(日)講演会 聴いてもらうことで「こころ」は育つ ～傾聴と共感～
- (2) 10/3(日)学習会 子どもが安心して話せる「聴き方」って？
- (3) 10/10(日)講演会 ほどよい距離の「子育て」「共育ち」～境界線と依存～
- (4) 10/31(日)学習会 これって子どもの問題？ 親の問題？ ～気づきのサポート～
- (5) 11/21(日)講演会 支える人が疲れないためのストレスマネジメント
- (6) 12/5(日)学習会 同じ体験や気持ちを持つ仲間に出会う
- (7) 12/19(日)講演会 「つながる」ことは希望につながる ～今を乗り越える力～
- (8) 1/16(日)学習会 いま、私ができること
- (9) 1/30(日)学習会 不登校・ひきこもり当事者の体験談を聴く

実行委員会検討会議 (6/20、7/4・18、9/5、10/1、2/6)

## 事業の成果

開催にあたり、早い段階より近隣で目的や趣意が同じ 2 団体から協力を得て 2 名の方に実行委員として参画してもらい、会議を重ねる中で様々な意見を出してもらいながら講座の骨子を練り直し再構成をした。近隣団体と協力体制が取れたことで普段の活動範囲より広いエリアに直に情報を届けることが出来た。

事業の目的は不登校やひきこもりを中心に子どもが苦しい状況に置かれている時に、共に悩み苦しさを抱えている親に対して、特に初期段階の不安な気持ちに深く寄り添え聴けるピアサポーターの存在が必要であり、その担い手を増やしていくことであった。

この点では当方のスタッフも子どもが不登校～ひきこもっていた体験を経て活動をしている元当事者家族であることと、実行委員の方も同じ体験があり主催側の姿勢として様々な意見を出し合える協力体制が取れたことは今後のより深い連携にも繋がる。更に受講者にもお互いに尊重しながら出来ることに取り組む姿勢を感じ取ってもらえたことは、ピアサポーターとして今後の活動イメージを持ってもらいやすく大きな成果と言ってよい。

また受講者との交流の中でも、自分の体験が誰かの役に立てるなら嬉しい、また自分にも出来ることなんだと知れたということや、アクションとして今回の講座情報を必要だと思われる人に知らせてくれたり、会場内でも積極的に情報交換などが行われていた具体的な行動も多くみられたこ

とは嬉しく思う。

講演、体験談、学習会を経た受講者は当事者と支援者という両側面を持つピアサポーターとして必要な知識を得る機会になった。更に社会と繋がる中で当事者体験を役立てることが出来る「温かな力」が自分の中に内在していると感じ取れたことは今後の活動意欲には欠かせない気づきとなった。身近なところにピアサポーターを必要とする人がいて、お互いが力を与え合うことができることに関心を持ってもらえたと確信する。

考えている。

その中で「ピアサポーターチーム」の結成に向け、実際にサポーターとして活躍してもらえる場の設定や仕組みづくりの検討チームを立ち上げる。

さらに貴財団より助成を受け 2020 年度「対人関係セッション」、今年度は当事者家族支援に向け「ピアサポーター養成講座」を実施できた。次段階はひきこもりの当事者支援のために「対人援助基礎講座」を展開し支援者の増員へと繋げる。

## 成果の広報、公表

今回の講座・学習会の実施報告や受講者の声を、当団体の発行物やホームページ、フェイスブックなどで順次発信していく。報告掲載並びに引き続き、計画しているピアサポーターに関する学びの機会を掲載した機関紙やチラシなどは当法人の会員、協力者、関係団体などに配布する。

併せて公民館や図書館、市民活動支援センターなどの公的機関に配架をしてもらう。また行政や社会福祉協議会をはじめ支援窓口や機関には今回の実施報告の公表をすると共に当団体の活動の広報にも活用していく。

## 今後の展開

今年度もコロナウィルス感染拡大防止対策に苦慮しながらの実施だった。最終回は東京より来阪していただく講師による講演予定だったが、学習会へと内容変更をして実施した。この講師には今回のご縁を活かし、6月末に改めて講演していただくことになった。今回の受講者、更に新たな希望者に学ぶ機会の継続提供をしていく。特に事業内で展開した学習会（体験談を話して頂き、その後学びと交流の時間を持つ）スタイルは満足感も高くピアサポーターとしての継続学習にもなると